

平成 19 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査
第 1 回地域検討会（長崎県） 議事概要

日時：平成 19 年 8 月 31 日（金）
10:00～16:00
場所：対馬市役所峰支所第一会議室

議 事

開会（10:00）

1. 環境省あいさつ
2. 資料の確認
3. 検討員の紹介〔資料 1〕
4. 座長選任
5. 議事

平成 19 年度調査の全体計画に関する説明〔資料 2〕

概況調査計画に関する説明〔資料 3〕

クリーンアップ調査及びフォローアップ調査計画に関する説明〔資料 4〕

その他の調査計画に関する説明〔資料 5〕

6. 全体を通じての質疑応答
7. その他連絡事項

昼食（12:00～13:00）

現地視察（13:00～16:00）

1. 越高地区
2. 志多留地区（一部委員は、現地解散）

閉会（16:00）

配布資料

資料 1 平成 19 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査地域検討会（長崎県）
検討員名簿

資料 2 平成 19 年度調査の全体計画（案）

資料 3 概況調査計画（案）

資料 4 クリーンアップ調査及びフォローアップ調査計画（案）

資料 5 その他の調査計画（案）

参考資料 1 対策の方向性（目標設定）の検討

参考資料 2 クリーンアップ調査マニュアル

以上

平成 19 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査地域検討会（長崎県）

第 1 回地域検討会（長崎県） 出席者名簿

（敬称略）

検討員（五十音順、敬称略）		
阿比留 忠明		対馬市廃棄物対策課
糸山 景大		長崎大学教育学部技術教育教室教授
上野 芳喜		（有）対馬エコツアー 代表取締役
上原 幸生		国土交通省九州地方整備局長崎港湾・空港整備事務所建設管理官室 前任建設管理官
大達 弘明		対馬海上保安部 警備救難課長
川口 孝範		NPO 法人 環境カウンセリング協会長崎（ECAN） 長崎県地球温暖化防止活動推進センター 理事
小島 裕		しま自慢観光リーダー
多田 樹雄		伊奈漁業協同組合 組合長
豊田 功己		越高地区 区長
永留 秋廣		対馬市廃棄物対策課長
藤原 正晴		対馬保健所衛生環境課長
本多 邦隆		長崎県廃棄物・リサイクル対策課 課長補佐
（代理：井手邦典）	（	同 主任主事）
松原 一征		（社）長崎県産業廃棄物協会 対馬壱岐支部 支部長
（代理：西山 保）	（	同 幹事）
真名子 良介		比田勝海上保安署 次長
オブザーバー（所属機関名）		
早見 和弘		対馬海上保安部警備救難課第一警備係
松村 一宏		比田勝海上保安署
環境省		
石橋 和隆		地球環境局 環境保全対策課 環境専門員
柴 里実		地球環境局 環境保全対策課 審査係
加藤 博巳		九州地方環境事務所福岡事務所 廃棄物対策等調査官
佐々木真二郎		九州地方環境事務所対馬自然保護官事務所 自然保護官
事務局：日本エヌ・ユー・エス(株)		
岸本 幸雄		取締役 環境コンサルティング部門長
常谷 典久		HSE コンサルティングユニット
佐藤 光昭		環境設計ユニット
加藤 稔		生物科学ユニット

議題1 平成19年度調査の全体計画について(資料-2)

質問・コメント等はなし。

議題2 概況調査計画について(資料-3)

質問・コメント等はなし。

議題3 クリーンアップ調査計画について(資料-4)

- 1) 定点調査の“満潮時”の具体的基準は何を基準にしているか。
業務の対象期間である2007年9月～2008年8月における最高潮位線を海側の基準線としている。
- 2) 今回モデル地区として選定された志多留地区と越高地区は、同じような湾内に位置する。他の解析のために、別の環境の場所を選定する方が良いと考えられるが、選定の理由は何か。
昨年度予算が政府原案として上がった段階で、都道府県環境部局の部長等が会議を開き、各自治体に手を挙げていただいた。その後、長崎県を通じて対馬市が出した海岸、特に対馬市は激甚被害地の一つであるということで、対馬市提案の海岸が選定された。
- 3) 作業員の確保は、地元で行うということか。
そのとおりである。
- 4) 事業終了後も継続的に漂着ゴミに対応するため、作業員の確保という点に関し、何か考えられないのか。
今後調整し、事業を通じて、継続的な清掃活動の実施体制を検討したい。
- 5) 日韓学生つしま会議のボランティアによるゴミ回収作業の件は、まだ詳細が固まっていない。
今後長崎県と対馬市が調整し、本事業とタイアップして実施していく。
- 6) 志多留地区については、重機の導入を検討しているが、具体的な方法を教えてほしい。
方法論については未定。干潮時をねらって、漁港側のテトラポッドの隙間から小型のバックホウを入れ、漂着ゴミを回収することを考えている。また、集めたゴミは海岸の山側に集めて置き、道路からクレーンでそれをつり上げて回収することを考えている。
事務局が考えている場所から重機が入るかどうか、現地を見て検討してほしい。
了解。検討する。
- 7) 越高地区のテトラポッドの背後に積もっているゴミには、既に植生が見られ、半ば道路のように地域の方が歩いている。ゴミを取るのには問題ないと思うが、取ってしまえば通路がなくなることは問題ないか。
取ってもらえればありがたい。
- 8) 漁業被害や自然への影響のある漂着油の漂着ルートについて、今回の調査の中で実施されるのか。
オイルボール自身は調査の対象になっているが、その発生源については今回対象としていない。
- 9) ゴミの中にある小さなパーティクル状のものは対象としているか。
レジンペレットについては、調査対象としている。

その他 全体を通じての質疑応答

- 1) 地域検討会のPRについて
(ア) 国際的な取り組みについて：今までの研修会や長年の回収を通じて、ゴミの量や性質が多少変わってきたと思っている。これは、韓国からのボランティア学生が活動内容の話を持ち帰

って、(周囲に)話しているから、多少ゴミが減ってきたと思っている。そこで、産廃協会の検討課題として、例えばこういう会議の資料、ビデオ等を韓国に行って、パネルディスカッションや検討会を含むPR活動を考えている。

環日本海の各国で行う北西太平洋地域海行動計画(NOWPAP)の会合が9月に韓国で開かれるが、日本の取り組み、国内の削減方策モデル調査について各国にご紹介をする予定である。また、この調査結果についても、瀬戸内海で実施する海底ゴミ調査結果のとりまとめができた段階で各国に報告する予定である。

(イ) 対馬島内や長崎県などへのPRについて(1): 漂着ゴミという問題は対馬にとって非常に深刻な問題である。そのため、マスコミへの対応は、できれば検討会の冒頭だけの傍聴(や撮影)ではなく、会議全体取材可ということにし、検討員の意見を広く対馬の方にも知っていただきたいと考える。第2回目以降は、全般にわたって取材可という対応は可能か。

(ウ) 対馬島内や長崎県などへのPRについて(2): 対馬島内での人口の多くは島の南部に集中しており、漂着ゴミに関する意識の温度差がある。漂着ゴミ問題を対馬市民に判ってもらうためにも、マスコミ等を通じて発表したほうがいいと思う。

(その他: 対馬島内における漂着ゴミに関する市民の温度差を縮小するため、例えば、日韓の学生で海岸掃除をするときも、行政側レベルだけではなく、市民側にも参加してもらいたい)

取材の件については、7地域全てを含め今後検討させてほしい。今回の検討会は、全ての検討員から、忌憚のないご意見を伺うためと考えたためであることをご理解いただきたい。なお、議事内容については、環境省のホームページでお知らせする予定である。

2) 今までの活動の大半は、海岸がきれいになることに重きを置いていた。検討会では、どういった方向で進めていこうと考えているのか。

現状を知り、これを分析することで課題が見つかる。これら課題に優先順位をつけて目的を共有でき、合意形成が可能となり、物事が進んでいく。この合意形成については、目的を共有することと考える。目的をきちんと共有し、そのことについて、何が問題で、何をどうしなければならぬかに関して互いに説明できるような状況になると、解決策が出てくると思う、例えば、漂着ゴミの浜での焼却行為(に対する逮捕記事)や、漂着ゴミの処理についても課題があり、これらに関する合意形成のための論議を行うのがこの検討会の方向性であると考えている。